

～エコ・リサ研修見学会報告～



エネルギーのこれからを考えるために

平成 23 年 8 月 22 日（月）、雨が心配される中、吉岡自然エネルギーパーク・ハッ場ダム建設予定地を、参加者 24 名で見学しました。

報告者：幸手市・さって市民環境ネット 中山 駿

見学場所はどちらも初めての訪問で、説明を聞き、多くのことを体験し、意義ある一日となりました。企画された幹事の方や説明をされた方々にはお礼申し上げますと共に、番外編の反省会では久しぶりに熱く語ることが出来、お付き合いいただいた皆様に感謝申し上げます。



東日本大震災とそれに続く福島原発事故では、改めて自然の脅威や、人間が制御しきれないものの恐ろしさを痛感しました。資源開発に従事し自然の怖さは十分に理解していたつもりでしたが、それを遥かに超えた凄さを再認識することとなりました。今回の見学会は時宜を得たもので楽しみにしていましたので、独りよがりな感想を述べます。



落差 7メートルで、タービンと発電機が一体になった水車発電機が 4 台設置されている。

類は既製品を主体とするもので、損が出ない事業と思います。収益はそれほど大きくないでしょうが、これからの時代に即した事業と考えます。

吉岡自然エネルギーパークは、群馬県企業局が運営する水力、風力、太陽光発電に地熱利用と正しく“パーク”に相応しい場所でした。目玉は昭和 57 年より運営の農業用水を利用した最大出力 540 k w のミニ発電所です。全国約 28 都道府県が公営事業として水力発電を行っているとのことで、群馬県は全国一位の 32 ヲ所、総出力 25 万 k w です。

このようなミニ発電は、今後もっと多くの県で開発が進められて良いものと思います。採算面では、農業用水路などの既存設備の利用で初期投資の軽減が図れますし、使用機器



一方ミニ発電の最大の課題は、活用する既存設備（既得権益）に係る人々との関係で、その理解が必要です。既得権益は長年の積み重ねで出来たものですから理解を得るのは簡単ではありませんし、今までの単なる補助金による補償方式と違った新しい価値観での相互理解を模索しなければならないと思いました。

風力発電の羽は、“上州の空っ風”がなく微動だにしていなかったのはご愛嬌でしたが、太陽光発電共々課題となる連続発電や蓄電技術の開発等まだまだ研究課題が多いと感じました。

ダム本体工事に際して、一時的に水を迂回させる仮バイパストンネルができていました。写真奥の松の木が生えている岩山と仮バイパストンネルまでが、ハッ場ダム本体工事予定地。



な不安（地滑り）を感じます。当然のことその対策は国の責任で実施され、5年、10年そしてそれ以上の対策工事が継続されることでしょう。そしてこれがまた言い争いの種をとりま

山を切り崩して代替地を整備

山を削り、沢だった所には水路を建設してあるのだが、土砂崩れの心配が。

ハッ場ダムは新聞・テレビで聞くだけでしたが、同行会員の説明に加え、現地で合流した渡辺氏の正確で偏らない率直な説明は大変感銘を受けました。現地を訪れ現場を見たことで、地元の人たちの長年のご苦労をほんの一部感ずることが出来ました。

既に移転完了した住居、未だ水没予定地で営業をしている旅館、子供のいない3階建て校舎、山奥には不向きなカラフルな保育園そして何故か国交省現地事務所に接してしかも避けて発生した裏山の土砂流出等様々な現状よりこれが偲ばれます。

しかし、私が現地で最も衝撃だったことは、谷の兩岸の山腹を削り取り、その直下に代替地造成を行っていることでした。環境破壊以前の、自然への暴挙と感じました。日本の土木技術は世界に冠たるもので、大型ダム構築、大型地滑り防止等国家プロジェクト事業を通して多くの新技術が開発、習得されました。その技術を持ってしても自然を抑えることは出来ないと考えます。ダム構築後、滞水が予定される延長約10Kmにもおよぶ山肌のあちこちが削られ、自然の条理に反した急斜面が構築されている様は、近い将来に大き



半世紀を超えて本プロジェクトを推進してきた国交省・関連自治体の関係者に、内心では正直なところどのように考えているか聞きたいものと感じました。

八ッ場ダムは、民主党政権で更に混迷したと思いますが、「基本高水に関する情報公開請求訴訟」で完全勝訴を得たことは素晴らしい光明で、これまでの流れと全く違う新しい動きを感じます。逼塞感のブレークスルーとなれば嬉しいことです。粘り強く活動に携わった関係者に敬意を表しますし、これから良い方向に行くと前向きに考えたいと思っています。



エコ・リサ会の皆さんが大変若々しく活発に活動、発言されていることは頼もしい限りで、繰り返しとなりますが、楽しい一日だったと感謝申し上げます。

J R川原湯駅前にあるダム建設事務所の裏も崩落

この夏の大雨で、土砂が事務所裏から駅舎にまで流れ込んだ。

他にも、参加頂いた非会員の方々からよせられた感想を一部ご紹介します。

*吉岡自然エネルギーパークでは、群馬県として発電に力を入れていることについて聞いたり、見たり、とても興味深かったです。

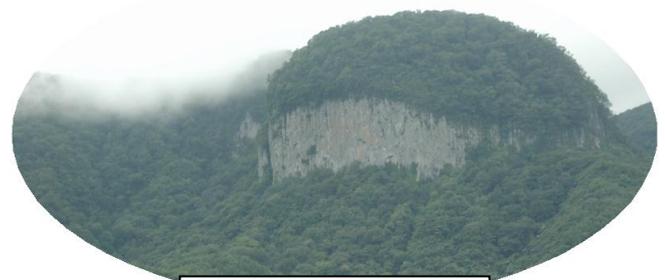
埼玉でも、太陽光発電だけではなく、小水力、バイオガス、そのほかの可能性を追求して進めていければなあーとあらためて思いました。

八ッ場も、詳しく、わかりやすい説明をしていただき、参加できてよかった！と思いました。

あたたかく迎え入れていただき、皆様に感謝します。

ありがとうございました。（吉田さん）

*八ッ場の国道が高くなって、私たちの視点もあがり、今までより視野が広がって、観光の点からもずっと面白くなったような気がします。どうですか。行くまではお通夜にいくような憂鬱な気分でした。ここでストップさせるのがいいですね。八ッ場ダムの他のメンバーの方たちと違って勉強不足というか野次馬の一人にすぎない程度なので、参加して勉強になり、とてもよかったです。ありがとうございました。（辻さん）



八ッ場の象徴の丸岩

かえってマイナス？ ハッ場ダムが発電量！

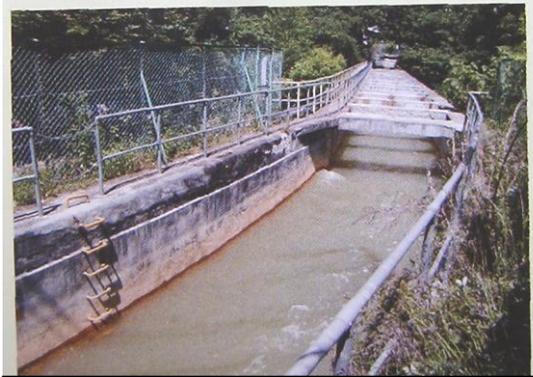
見学に行って、説明を聞かなければ知らないままだったのですが、ハッ場ダムの計画のある吾妻川には、すでに5ヶ所で古くから流れ込み式の発電がされているそうです。（全体では下図参照）

ところがハッ場ダムができると、ダムに水を貯める為、このすでにあるダムへ水が廻せなくなり（水力発電所に送られている水の大半を吾妻川に戻さなければならぬ為）、発電量が大幅に減ってしまうといえます。発電量は従来の**5分の1**になる上に、

（1955～1984年実績から試算すると、発電減少量は年平均**22,400**万KW/h。ハッ場ダムの計画発電量は年平均**4,100**万KW/h。）東京電力に発電できなくなる保障として、減電保障金を支払わなければならないのです。その額**数百億円！！**ビックリです！！発電量が減ってしまい、保証金まで発生するなんて！

福島第一原発事故により、発電量を増やすのが急務で、そのためにもハッ場ダムが必要と思っている人が多いとしたら、大きな誤解だということになります。正しい情報が伝わっていないのだと改めて思いました。

現場に行って、初めてわかることが多いことを実感した見学会でした。（轟 涼）



発電所に吾妻川の水を送っている水路

もう、こんなにある水力発電所

